

マイグレーション 実態調査レポート 2018

— 発行 —

株式会社SHIFT

発行日 : 2018/10/02

実施概要および目次

■ 実施概要

実施方法 : Web回答方式

実施期間 : 2018年6月28日～8月31日

対象者 : 日本に本社を置く企業の
情報システム部門の方

有効回答数 : 141件

■ 目次

1. 調査結果
2. 回答者の属性
3. 回答企業のIT投資状況
4. 今後のマイグレーション検討状況
5. 過去のマイグレーション実施状況

はじめに

日本企業のIT投資額における新規投資の比率は、海外と比べて低いといわれている。その要因のひとつは、国内の金融や製造業界などが未だに重用する老朽化した社内基幹システムなどの存在である。

これらシステムの老朽化対応は、業務ロジックを変えないマイグレーション（移行）手法が最初に考えられるが、問題点も多く語られている。

実際には人手不足や品質などの原因により、具体的な課題やリスクが明確にならないことで企業担当者は二の足を踏んでいる状況にある。

SHIFTはソフトウェアの品質保証のプロとして、本調査を通じて国内企業のマイグレーションにおける経験と、今後不安視されている課題点を明らかにする。

本レポート結果を、今後マイグレーションに取り組む可能性のある全ての企業に、参考情報として役立てていただきたいと考えている。

1. 調査結果

本調査による「回答企業のIT投資状況」では、レガシーシステムの保守運用に関して、IT予算の20～40%を費やす企業が多く、また80%の企業が保守切れを課題と認識されていることがわかった。

一方で、マイグレーションの必要性を感じながらも「必要工数の多さ」や「コスト圧迫」、「仕様書がなく知見者もいないためシステム全体を把握できない」など企業負担の大きさに対する不安も見て取れる。

「今後のマイグレーション検討状況」の調査によって、約40%の企業が今後3年以内にマイグレーションを検討していることもわかった。また、主なマイグレーションの動機は「システムの保守期限」や「ベンダーの販売／サポートが終了するEOSL（End Of Service Life）」が最も多かった。

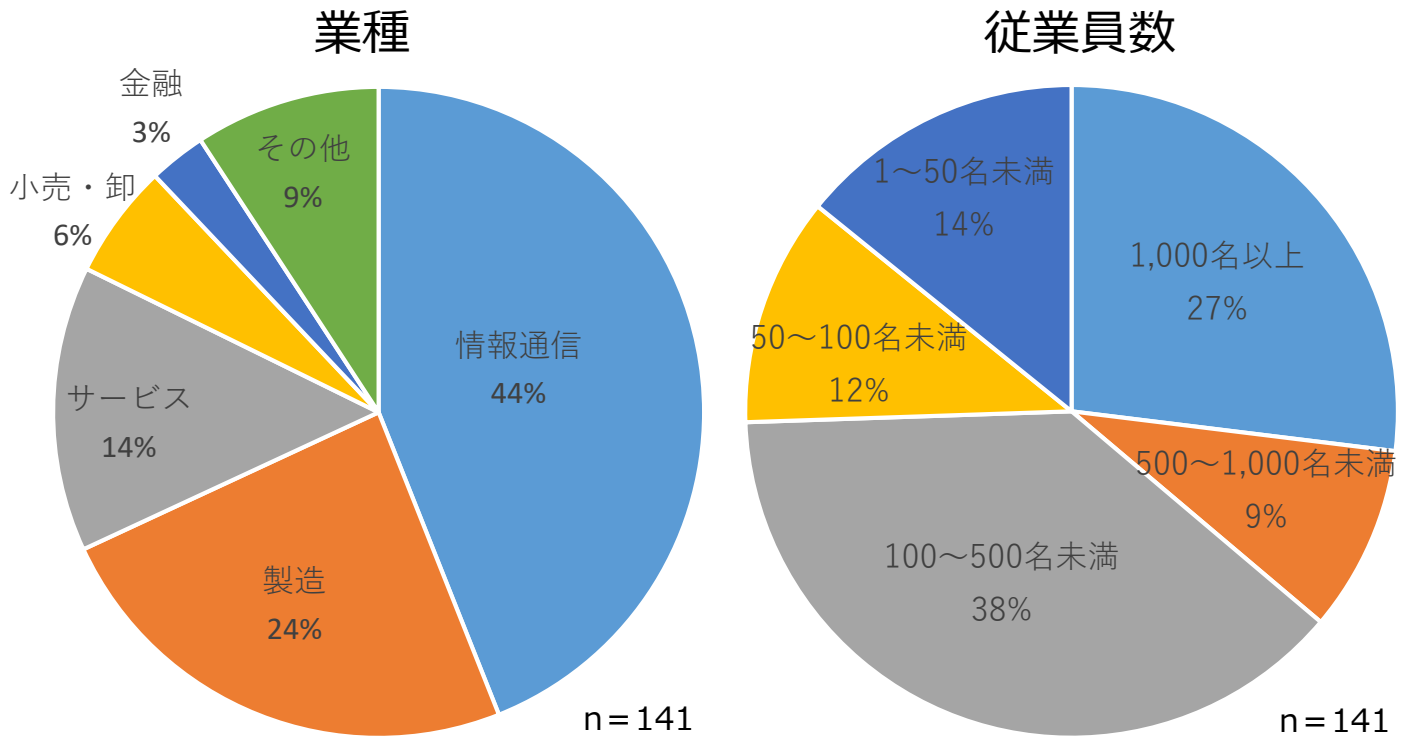
「過去のマイグレーションの実施状況」の調査では、「ほぼ計画通りに成功した」と回答したのは約40%にとどまった。「計画通りではなかった」「苦労した」と回答した約60%の企業が、その要因を主に「スケジュール遅延」（プロジェクト管理）や「マイグレーション費用の超過」（コスト管理）、「品質が良くない／トラブルが多い」（品質管理）と回答した。さらに、これらの企業は移行後の不具合発生頻度が多いということがわかっている。

（考察）

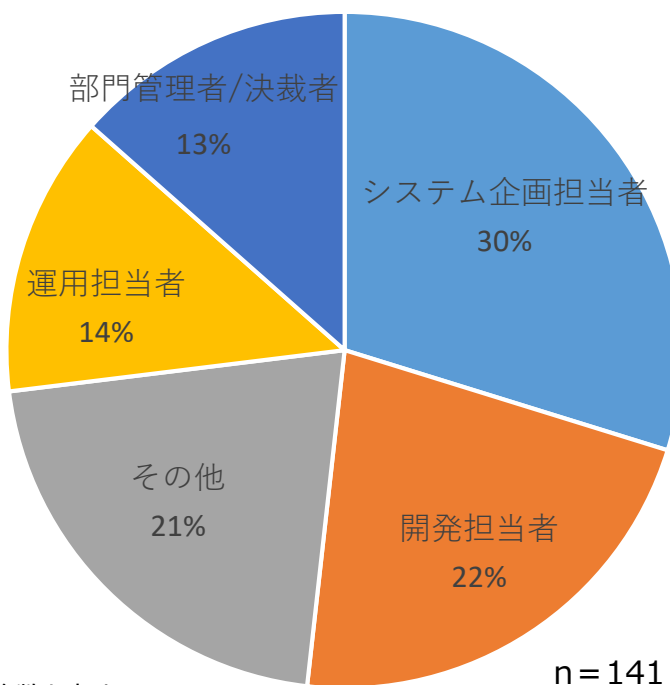
マイグレーション実施における不安に対して、プロジェクト管理／コスト管理／品質管理における専門的知見の不足から、移行検証などのリスク低減の施策が不十分となり、プロジェクト全体の品質担保が困難となっていることが推測される。加えて、仕様書が整備されていない中での再構築は、想定外のトラブルを招くことになるといえる。

以上から、マイグレーションにおける専門的な知見の確保と、プロジェクト品質を担保を実現する取り組みや支援が必要であると考えられる。

2. 回答者の属性



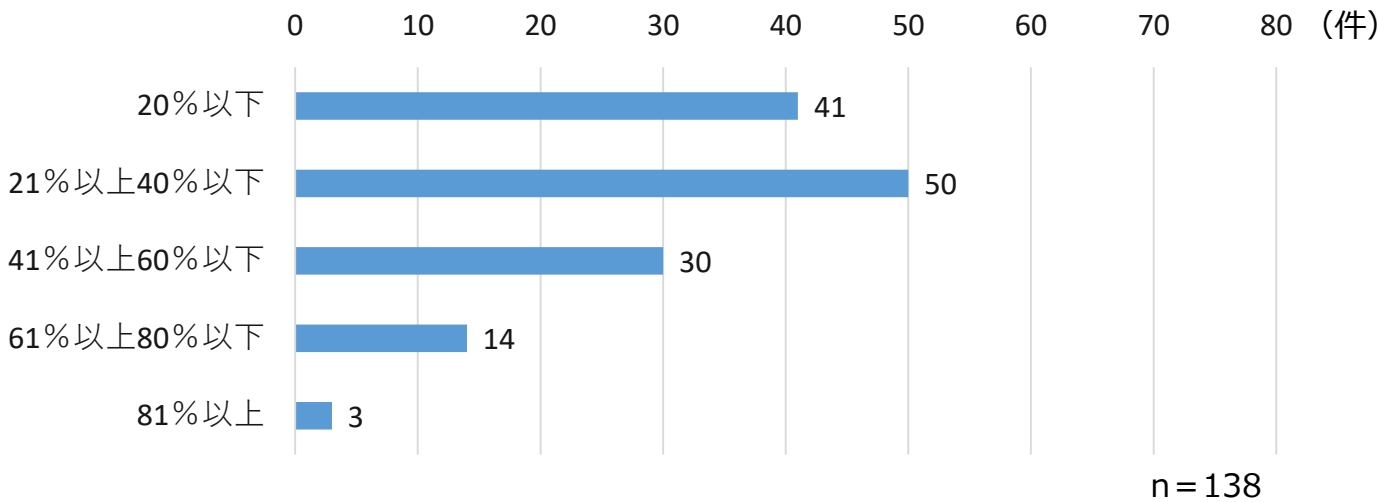
アンケート回答者の企業内での役割と立場



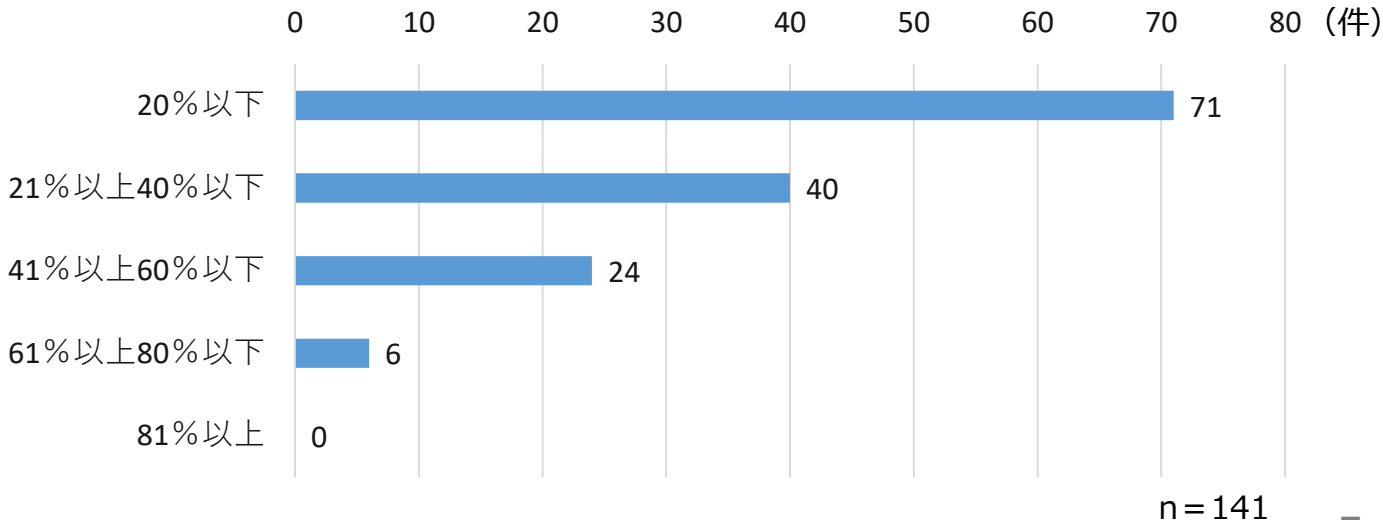
3. 回答企業のIT投資状況

一般的に「老朽化対応／再構築」はIT投資の中でも収益性の少ない維持費用として捉えられるため、半数以上の企業が20%以下に抑えたいと考えている。しかしながら、20%を超えるIT投資がかかっているのが実態であり、IT投資に占める割合としては21%～40%が最も多いことがわかった。

企業におけるIT投資額に占める
「老朽化対応／再構築 予算」の割合



企業が“理想的”と答えるIT投資額に占める
「老朽化対応／再構築 予算」の割合

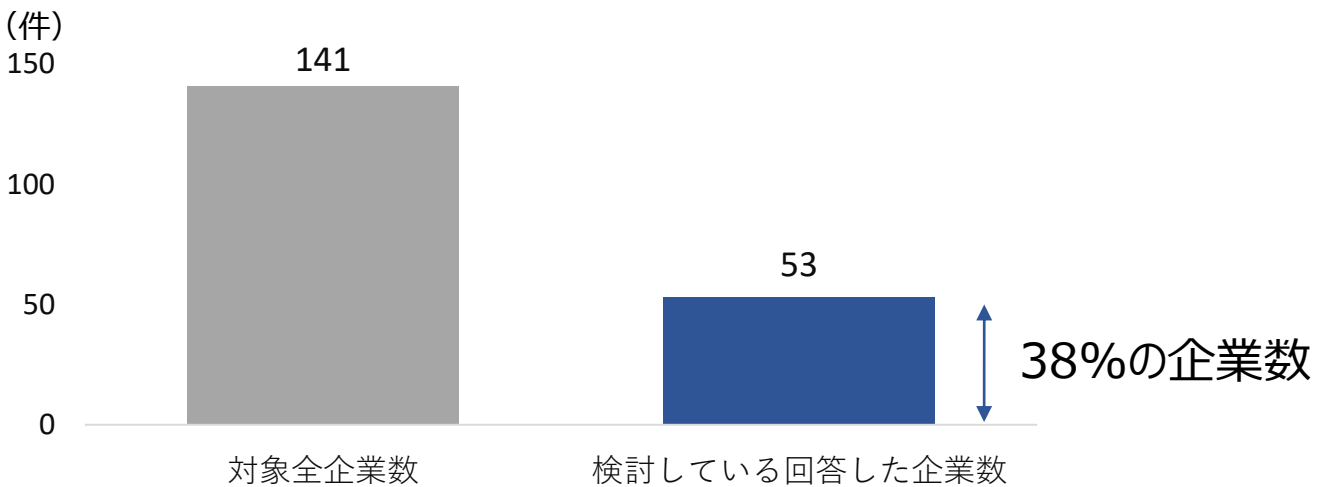


※n数は各項目における有効回答数を表す

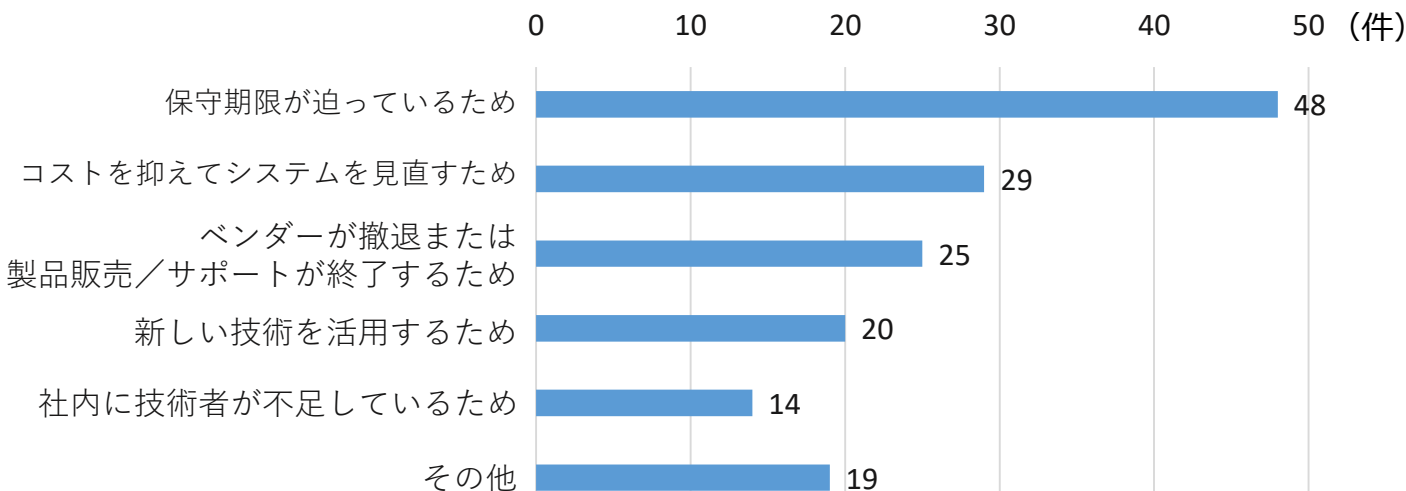
4. 今後のマイグレーション検討状況

「システムの保守期限」や「ベンダーの販売／サポートが終了するEOSL（End Of Service Life）」が主な要因として上位にランクインし、約40%の企業が今後3年以内にマイグレーションを検討している。また、将来的な保守費用削減や新しい技術を活用することがマイグレーションの動機になることもわかった。

今後3年間に
マイグレーションを検討している企業の件数



今後3年間に
マイグレーションを検討している理由（複数回答）

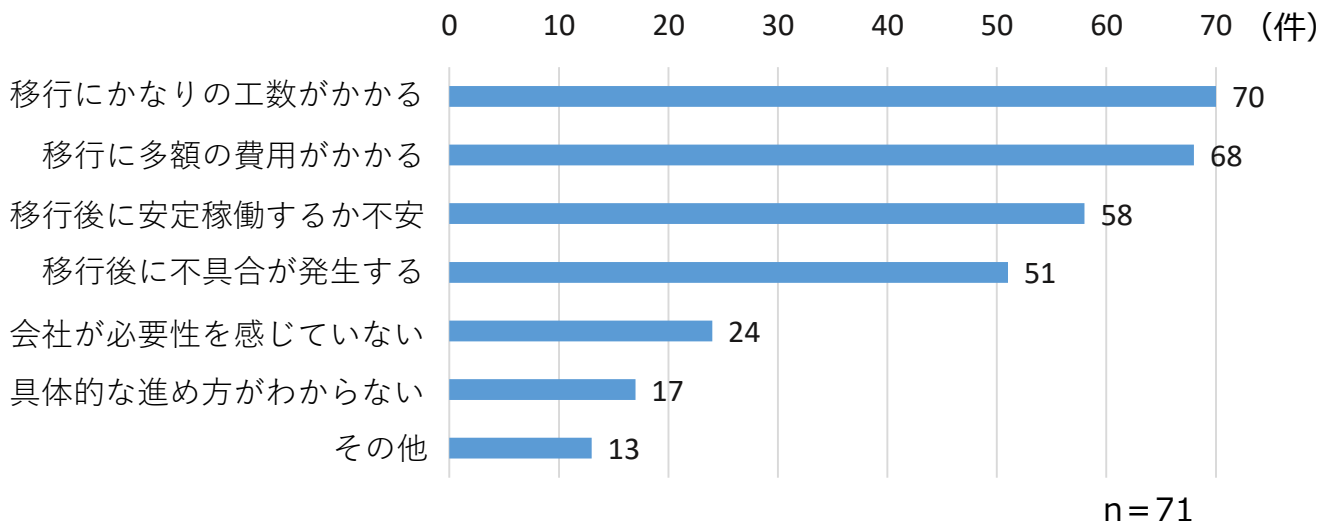


n = 複数回答 6

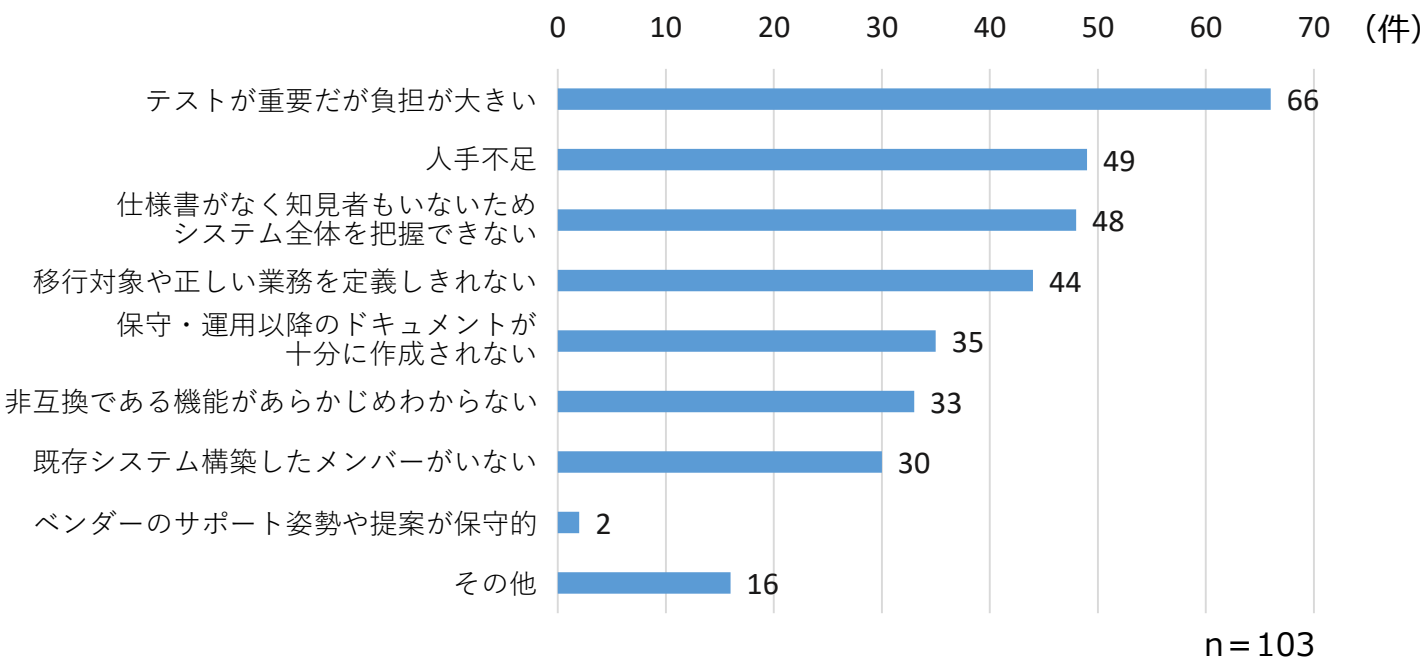
4. 今後のマイグレーション検討状況（課題／原因調査） **SHIFT**

マイグレーションを実施するあたり、必要以上の工数／費用がかかることを企業は不安視している。P.6で述べたEOSLに伴うマイグレーションであれば、IT投資を抑えたい企業心理が見て取れる。また、発注側は通常業務を抱えていることも関係しているのか、人手不足やテストにおける工数負担増を懸念している。

今後実施予定のマイグレーションに関して、
不安／リスク／課題に感じる事（複数回答）



今後実施予定のマイグレーションに関して
不安や課題に感じる原因（複数回答）

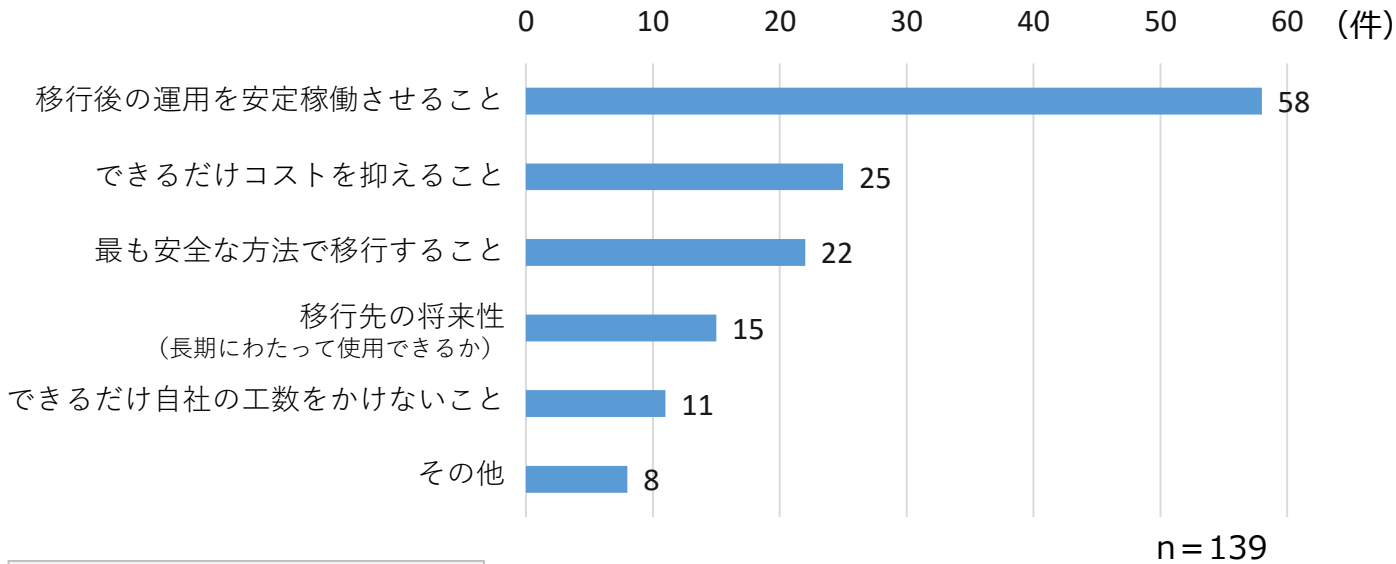


※n数は各項目における有効回答数を表す

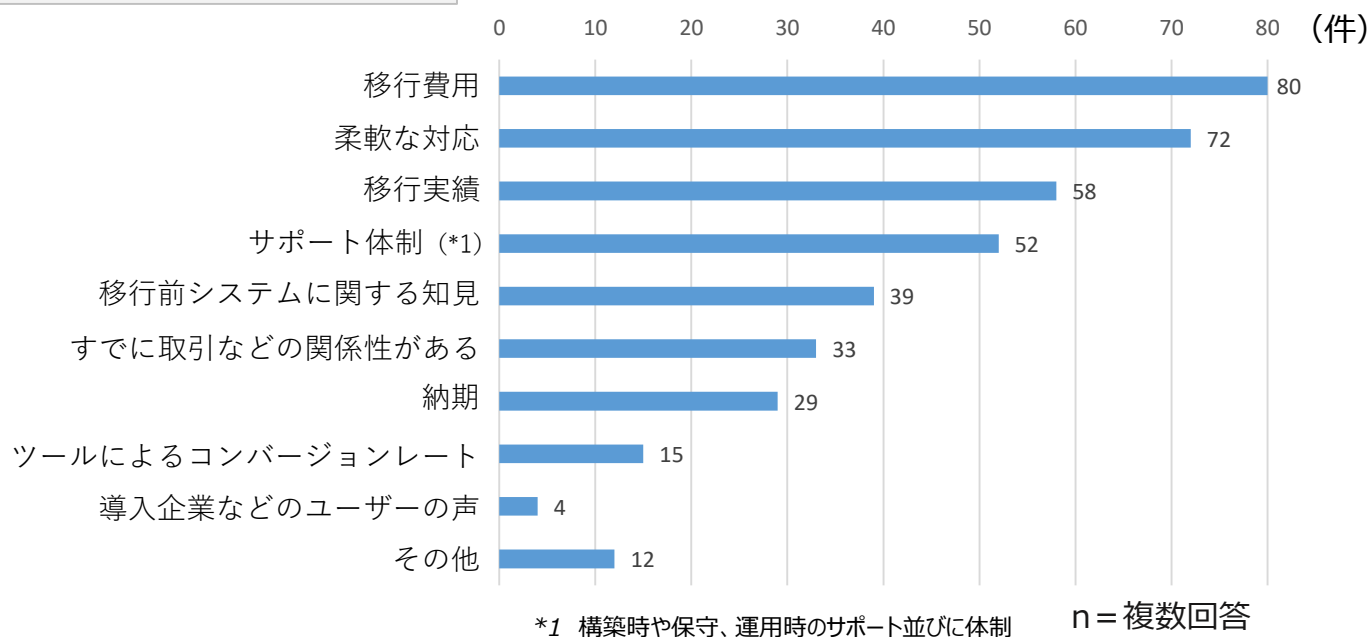
4. 今後のマイグレーション検討状況（重要ポイント）

企業はマイグレーションに、運用時の品質／安定稼働を第一に求めている。ただし、過剰なIT投資を避け、できるだけ費用を抑えた手法を求めていることがわかる。品質とコストはトレードオフな関係が一般的ではあるが、両方のバランスの良さがベンダーには求められている。

マイグレーション実施にあたり もっとも重視したいポイント



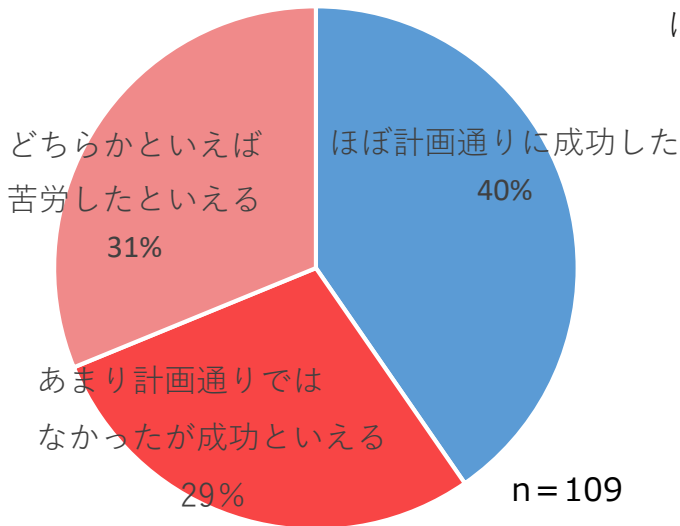
マイグレーションを検討する際の ベンダー選定基準（複数回答）



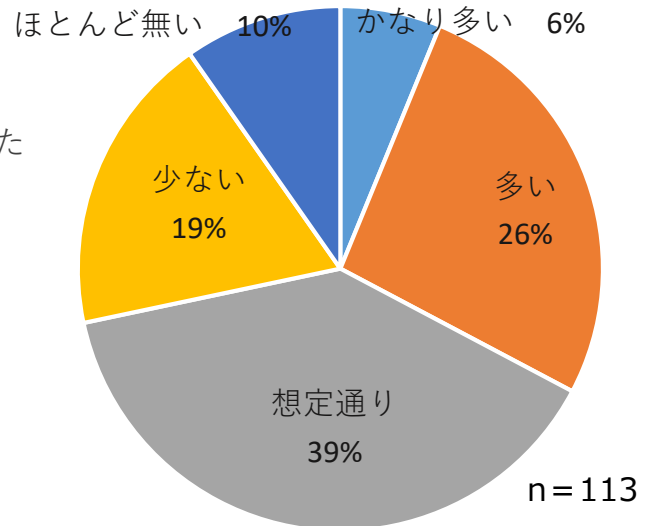
5. 過去のマイグレーション実施状況

マイグレーションが計画通りでなかった企業が60%と、順調にマイグレーションを進めることはかなり難しいことがわかる。苦労した要素に「スケジュール遅延」や「品質低下」などがあがっているため、IT投資を抑えつつ品質／納期を確保するやり方が求められている。

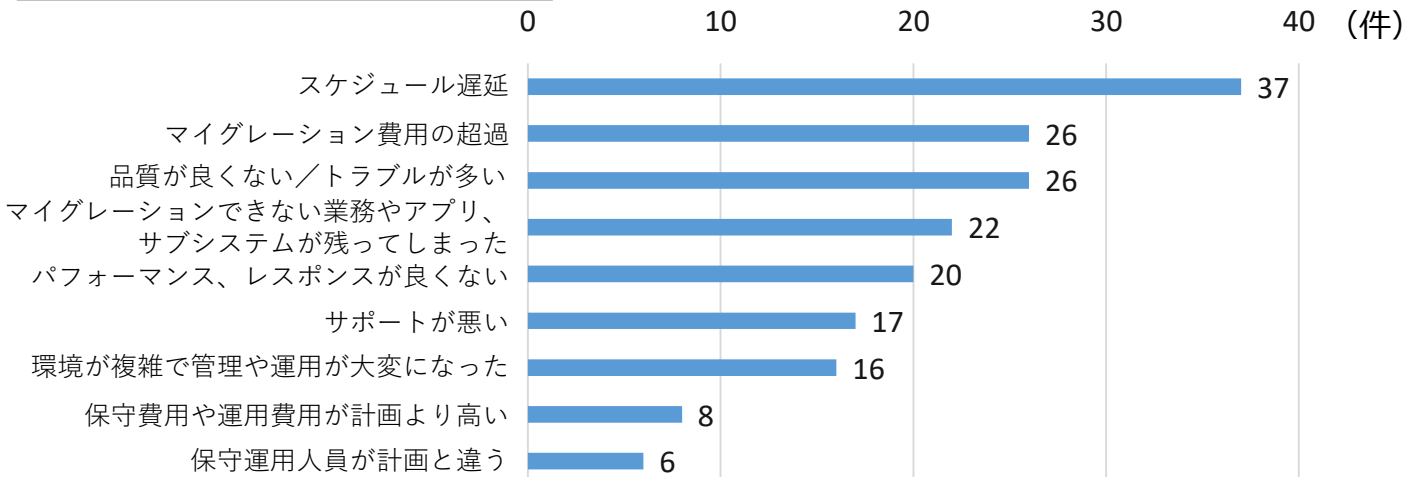
過去マイグレーション実施企業
における成功可否



過去マイグレーション実施企業に
おけるリリース後の不具合発生状況



過去実施企業において計画通りでなかった、または苦労した点

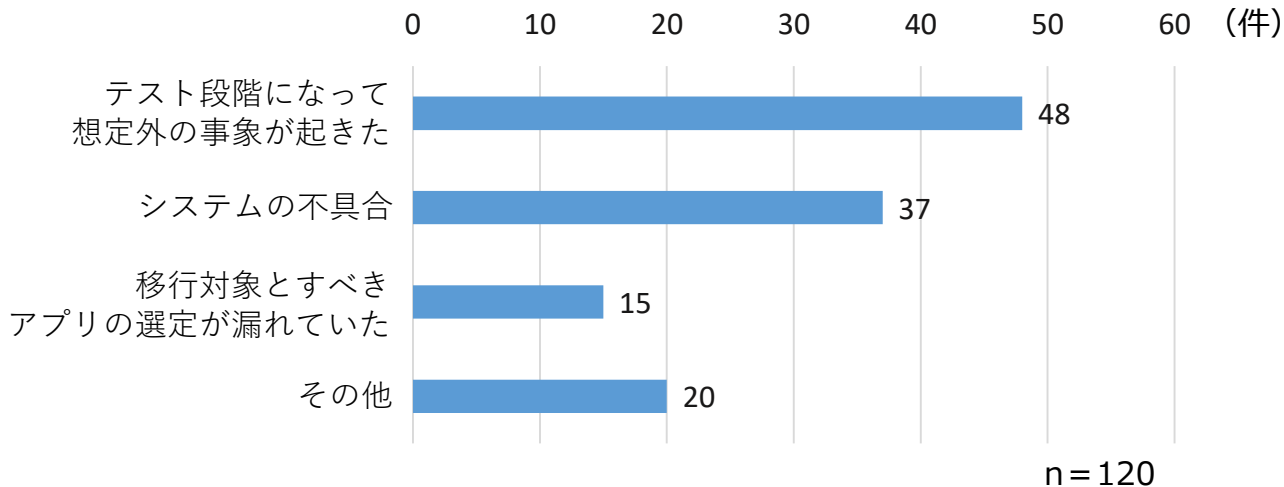


※n数は各項目における有効回答数を表す

5. 過去のマイグレーション実施状況

マイグレーションにおけるトラブルの原因として、プロジェクト後半に行われるテスト工程で想定外の事象が多く発生する事がわかった。これによる手戻りが発生することでP.9で記載したスケジュール遅延に繋がっているのではないかと推測する。移行対象の互換性調査でトラブル要素を未然に防ぐことが重要と推定される。

マイグレーションを実施した際に発生したトラブルの原因



その他、マイグレーション実施企業が経験した失敗事象（定性回答抜粋）

1. システム移行後、システム自体にバグ（不具合）が多く困った。
（ベンダー側のテスト不足）
2. コスト優先の選定の為、検討不足と社員任せの傾向が強くなり、マンパワー頼りになってしまった。
1. 非互換点を調査し対策を打ったものの、テストでエラーを検出。
フレームワークの不具合があり、対応に時間がかかった。
2. マイグレーション前の検討段階がいろいろ大変だったが、大きなトラブルはなし。

【本調査内容に関するお問い合わせ先】

株式会社SHIFT

営業本部 マーケティンググループ

T E L: 0120-142-117

E-mail: marketing@shiftinc.jp

本資料を無断で流用・転載・
転送・複写することは固くお断りいたします。